令和７年度　自己評価・学校関係者評価　報告書

岐阜県立岐阜盲学校

学校番号	101

自己評価

学校教育目標	・障がいによる学習上又は生活上の困難を克服し、互いに助け合い、明朗で、たくましく生きる力を身につけ、社会に貢献できる児童生徒を育成する。

評価する領域・分野	視覚障がい支援部「児童生徒支援」「センター業務」
現状及びアンケートの結果分析等	・個別の教育支援計画について、「わからない」の割合が一定数ある。 ・担任が保護者や本人と目標や将来、現在の取組の意義について具体的に話ができるように取組を進める。
今年度の具体的かつ明確な重点目標	・在校生についての共通理解を図るため、児童生徒理解研修を実施する。 ・外部支援において、関係諸機関と連携し、視覚障がい教育の専門機関としてセンター的機能の充実を図る。
重点目標を達成するための校内組織体制	・視覚障がい支援部、学習研修部など他分掌、各学部教員 ・視覚障がい支援部（見え方の相談支援センター）
目標の達成に必要な具体的取組	・個別の教育支援計画の作成、視機能評価や職員研修を行い、校内支援の充実を図る。 ・学校保健講習会や特別支援教育推進協議会、母子保健担当者研修会等で「見えづらさの理解や支援」についての理解啓発を図る。 ・教育支援相談、支援訪問、目に関する相談会、弱視通級指導、乳幼児教室などの取組を通して、関係機関との情報共有を図る。
達成度の判断・判定基準あるいは指標	・相談内容やニーズに応じて情報提供、支援をすることができたか。 ・必要に応じて関係諸機関と連携することができたか。
取組状況・実践内容等	・職員研修として、児童生徒理解研修会、視能訓練士を講師に招いた研修会を行った。 ・就園、就学、居住地での学習活動に関わって関係機関とつながり、情報共有、個に応じた支援を行った。

評価の視点	評価
①保護者や本人の意見が個別の教育支援計画に反映されている。	A (B) C D
②視覚障がい児者に対して適切な指導・支援をしている。	A (B) C D
③視覚障がい児者に対する相談支援センターとしての役割を果たしている。	A (B) C D
成果・課題	**総合評価**
○保護者や児童生徒への丁寧な聴き取り、視機能評価による見え方の把握を行い、個別の教育支援計画に反映することができた。 ▲視覚障がい児者に対する適切な指導・支援につながるよう、校内外への情報発信を行う。	A (B) C D

来年度に向けての改善方策案	・職員間で情報、指導支援について共通理解をする。 ・校外の児童生徒に関して、関係機関と連携、市教育委員会の協力を得て、ニーズがある児童生徒の掘り起こしや情報、支援提供を連携して行う。

学校関係者評価　（令和７年６月３０日、同年１１月１日、令和８年１月２８日実施）

意見・要望・評価等

・一般の人には、全盲の方と弱視の方の区別がない。盲学校にも弱視の児童生徒が在籍していることを周知する必要性を感じている。

・弱視通級指導は、盲学校の新しい役割と感じた。盲学校への入学にハードルが高いと感じている児童生徒、保護者には必要な支援と感じる。